



令和7年度第1回社会教育委員会議 テーマ説明資料

令和7年10月27日（月）

社会教育委員会議とは



【社会教育委員のミッション】

1. 社会教育に関する諸計画の立案、教育委員会の諮問に対する意見陳述や提言書等の作成をします。また、そのために必要な研究調査等を行います。
2. 青少年教育に関する事項について、社会教育関係団体、社会教育指導者その他関係者に対し、助言と指導を与えることができます。



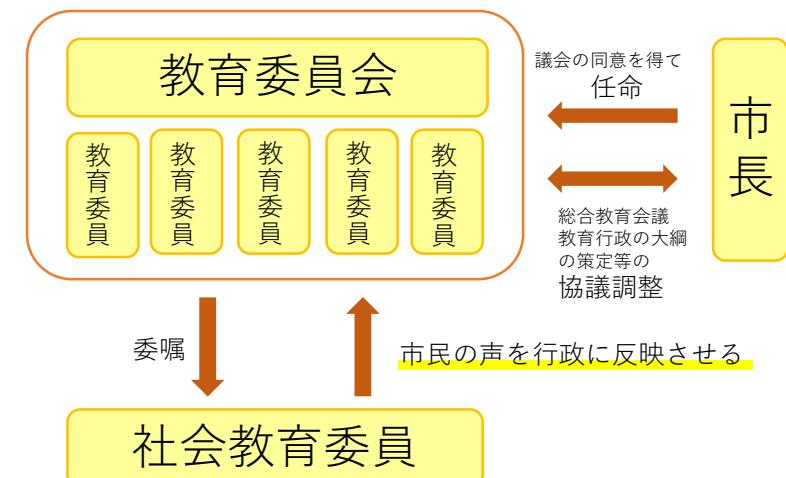
こうしたミッションを実現させる場として、
社会教育委員会議が開催されます

委員定数：15名以内

開催時間：平日日中のうち、2時間程度

回数：令和7年度は年2回、令和8年度は年3回の開催を予定
任期：2年（令和7年6月1日～令和9年5月31日）

報酬：8,000円／日

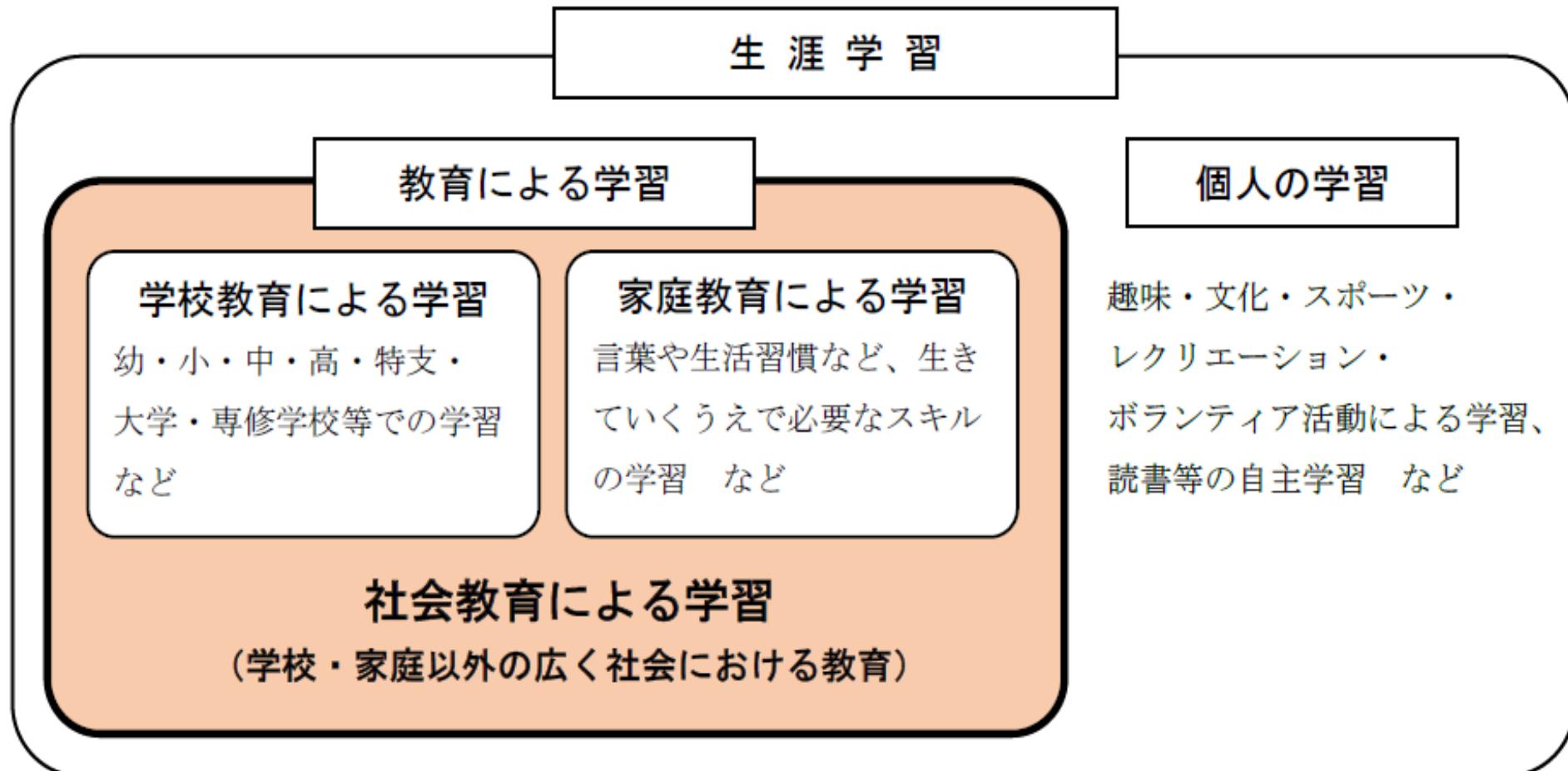


社会教育とは



つづく
も
つなぐ。

社会教育とは、学校教育・家庭教育以外の、広く社会における教育で、生涯学習社会実現の中核を担うもの
(例) 公民館等の公共施設での講座・教室、博物館・美術館等の展示、NPOなど民間団体による講座・イベ
ント などなど





つづくも、
つなぐ。

家庭教育支援とは

○家庭教育支援とは（文科省HPから）

家庭教育とは保護者が子供に対して行う教育であり、**すべての教育の出発点**といわれています。

また、家族のふれ合いを通して、子供が、基本的な生活習慣や生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、他人に対する思いやり、基本的倫理観、自尊心や自立心、社会的なマナーなどを身につけていく上で、重要な役割を果たしています。

教育基本法において、国及び地方公共団体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習機会や情報の提供など、家庭教育を支援するための必要な施策を講じることと規定されています。

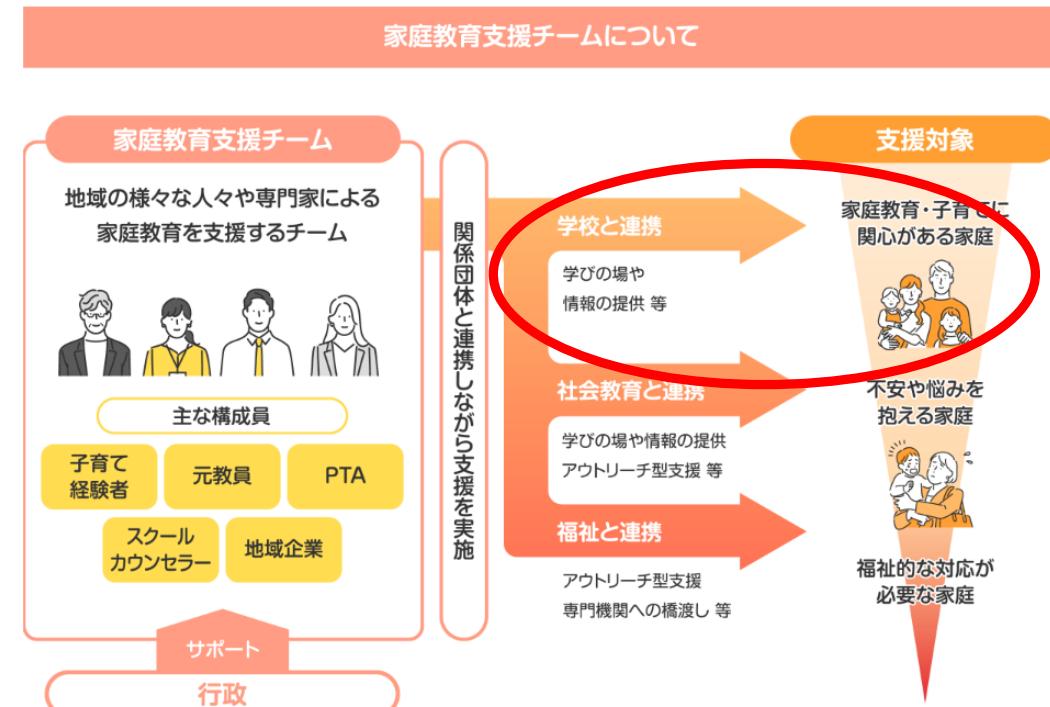
○「家庭教育支援チーム」（文科省HPから※右図参照）

家庭教育支援チームとは、身近な地域で子育てや家庭教育に関する相談にのったり、親子で参加する様々な取組や講座などの学習機会、地域の情報などを提供しています。

なお、柏市は家庭教育支援チームの登録はありませんが、**みんなの子育て広場支援委員会**を市内小学校で立ち上げ、学校（教員）、PTA、市（生涯学習AD、みんなの子育て広場CO）の連携で家庭教育支援を推進しています。

※家庭教育支援の対象者

文部科学省が実施する家庭教育支援の対象は、主に子育てを行う保護者や家庭。子どもの発達段階に応じた支援を行い、乳幼児から思春期の子どもを育てる家庭が含まれますが、柏市では家庭教育支援事業「みんなの子育て広場」として、主に小学生の保護者や家庭を対象としています。



柏市の家庭教育支援事業「みんなの子育て広場」とは

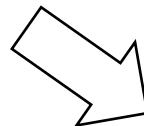


つづくも、
つなぐ。

学校・家庭・地域の連携による支援委員会を市内小学校で立ち上げ、この支援委員会を中心に、
大きく3分類の取り組みを行っています。

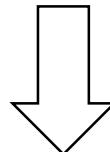
1. 保護者の学び (講演会)

例) 外部講師による講演会
つぼみスクール（思春期の下着の選び方）など



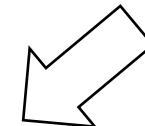
2. 保護者と子どもの学び (親子で学ぶ授業)

例) 親子で同じ場・同じ内容を学ぶ授業
性教育・情報モラル教室、体験型防犯教室
など



3. 保護者同士の交流 (情報交換会)

例) 保護者会や授業参観で集まるときにすごろくトークなど



- ・保護者の不安や悩みの解消
 - ・保護者同士の仲間づくり
- を目指して活動しています！

みんなの子育て広場事業の現状と課題



価値観の多様化、課題の複雑化

⇒社会変化が速く、予測困難な時代・・・子どもを取り巻く環境や課題の多様化、複雑化

⇒共働き家庭の増加・・・保護者が多忙で、学校や家庭のことまで十分な時間が割けない。

⇒教員の働き方改革・・・忙しい教職員。家庭内（学校外）のことまで手が回らない？

⇒保護者間のつながりが希薄・・・P T A組織の廃止や活動縮小、担い手不足。保護者間の交流や情報交換が限定



○参加者の減少

⇒共働きで忙しい保護者・・・時間が合わない？ 関心が少ない？ 悩んでいる保護者も参加できない。

○支援事業の偏り、固定化

⇒講演会の内容に偏りがある。令和6年度は26件／28件が助産師による命の授業（性教育）

⇒情報交換会（すごろくトーク）テーマの固定化

【課題】価値観の多様化、課題の複雑化、保護者、教員を取り巻く環境が変化

・参加者の減少

・保護者ニーズ（興味）への対応が出来ていない。



つづくも、
つなぐ。

子どもへのかかわり方の影響

父母との会話が多い子どもは、「進路について深く考える」経験をしている。

◆図表2-2 進路を考える経験（父母との会話別）



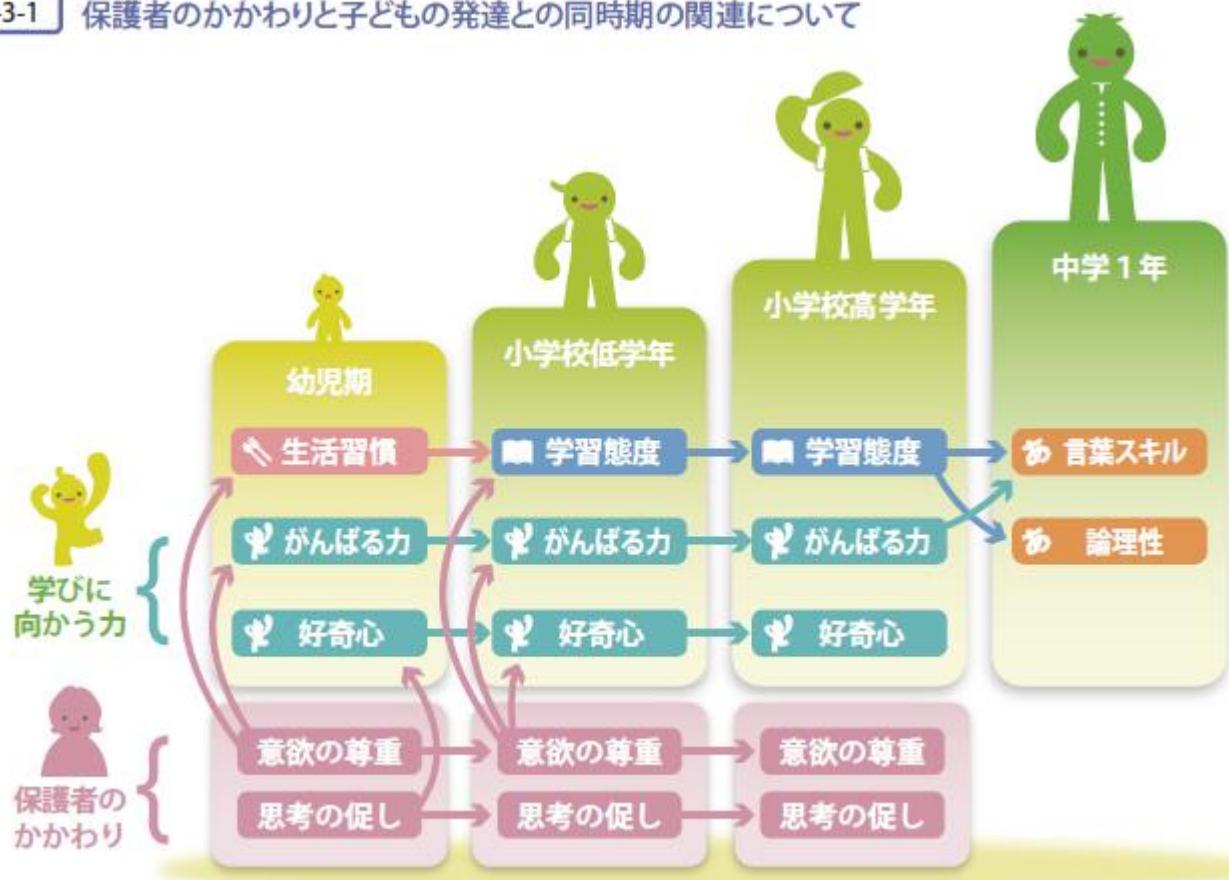
子どもへのかかわり方の影響



つづくも
つなぐ。

保護者による子どもの「意欲の尊重」や「思考を促す」かかわりは
幼児期～小学校低学年の子どもの発達を支えている

図 4-3-1 保護者のかかわりと子どもの発達との同時期の関連について



・ 幼児期と小学低学年では、保護者が子どもの意欲を尊重したり、自ら考えるように思考を促したりすることが、子どもの「生活習慣・学習態度」や「好奇心」、「頑張る力」といった「学びに向かう力」を支えていた

・ 一方、小学高学年での保護者のこうしたかかわりは、子どもの「学習態度」や「学びに向かう力」に関連していなかった

出典：「家庭教育調査」ベネッセ

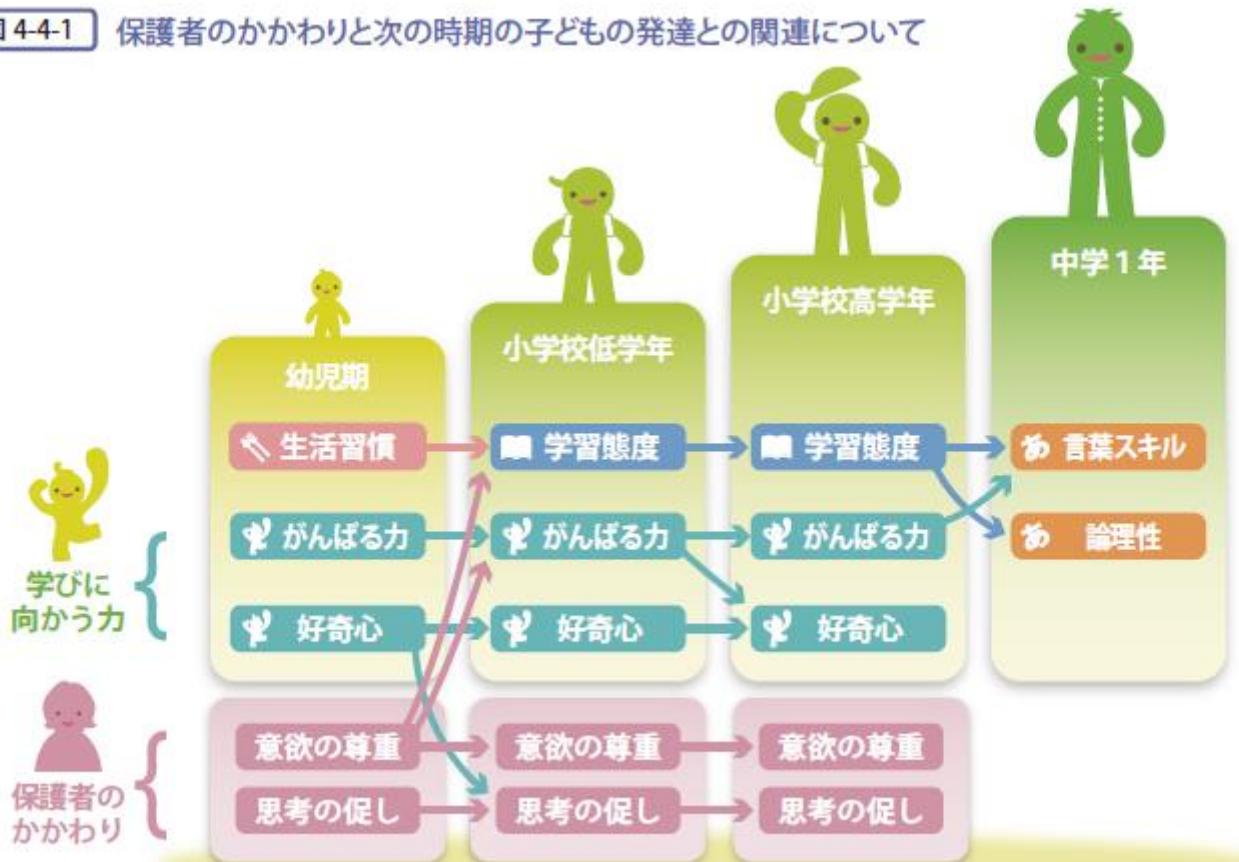
子どもへのかかわり方の影響



つづくも
つなぐ。

幼児期の意欲を尊重する保護者の態度が小学校低学年での「学習態度」や「がんばる力」の成長につながる

図4-4-1 保護者のかかわりと次の時期の子どもの発達との関連について



・ 幼児期に保護者が子どもの意欲を尊重する関わりが、小学低学年での「学習態度」や「がんばる力」の成長に結びついていた

・ 小学校低学年の「学習態度」や「がんばる力」は小学高学年での「学習態度」「がんばる力」「好奇心」に関連

・ さらに、中学1年時の「言語スキル」「論理性」の発達へと関連

出典：「家庭教育調査」ベネッセ



幼児期から小学低学年における保護者の養育態度や働きかけが、子どもの今とその後の発達を支えている



家庭教育支援（みんなの子育て広場）は何ができるのか



子どもたちが将来に向けた
選択肢や可能性を広げ、
「自分らしく生きる力」
を育むための家庭教育支援とは

テーマ設定～背景～



【仮説】

子どもたちは生きづらさを抱えているのではないか。

(理由1) 普遍的なルート（受験進学をして就職する）が決まっているから。
→やりたいことがわからない子が、とりあえず大学進学？

(理由2) 人生の選択肢が多様にありすぎて自由すぎるから。
→行き過ぎた自由が却って生きづらさを生んでいる？

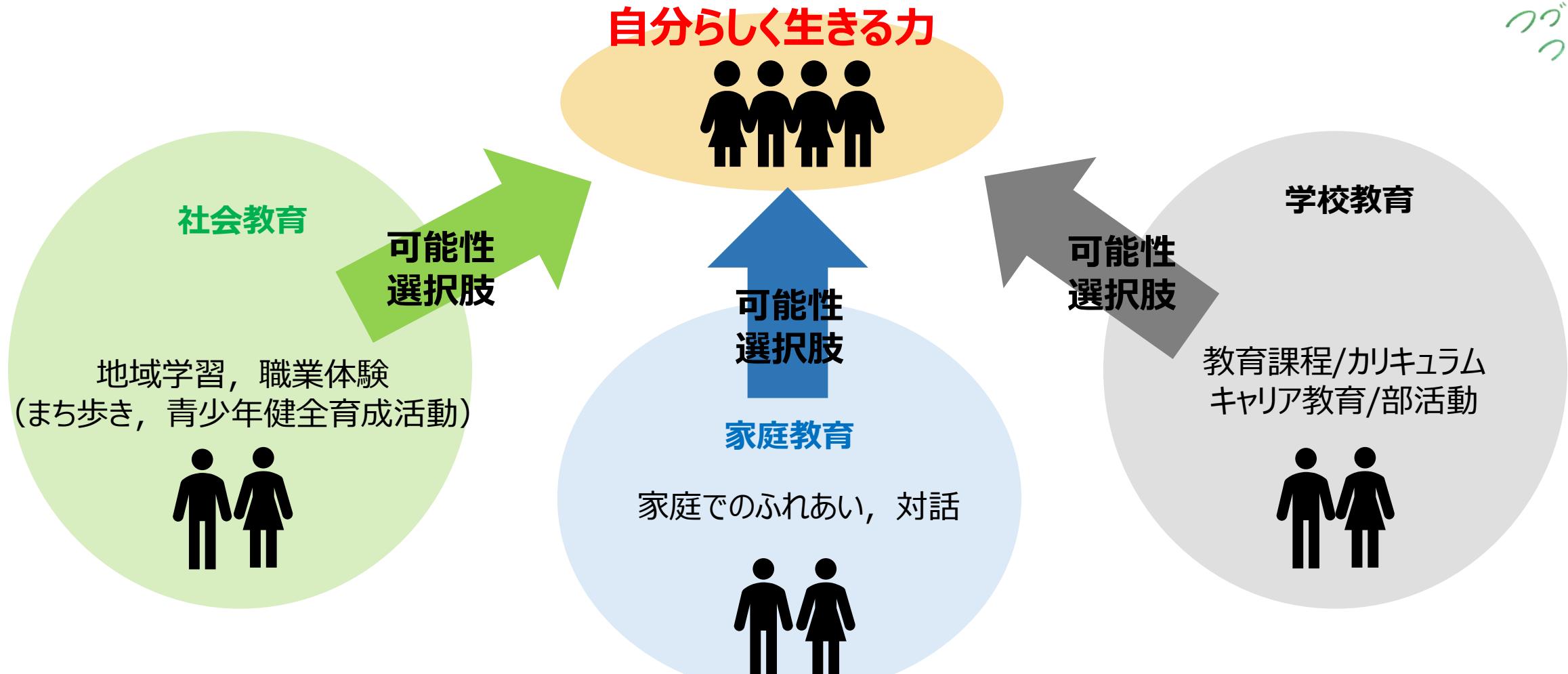


【仮説が事実であれば、家庭教育支援（子育て広場）は何ができるか。】

「生き方の選択肢は実は幅広い」ということ、一方で「不確実な時代の中で（明確な道しるべが無い中で）選択しなければならない大変さ」もあることを親子に示したい。

→（子ども）幼少期から生き方を学び、実践を通して可能性を知り、自らの選択肢を広げる。
→（親）子どもの人生の選択肢を広げるため、保護者自らが価値観や多様な考え方を学び、家庭教育の幅を広げる。

生涯学習の全体像



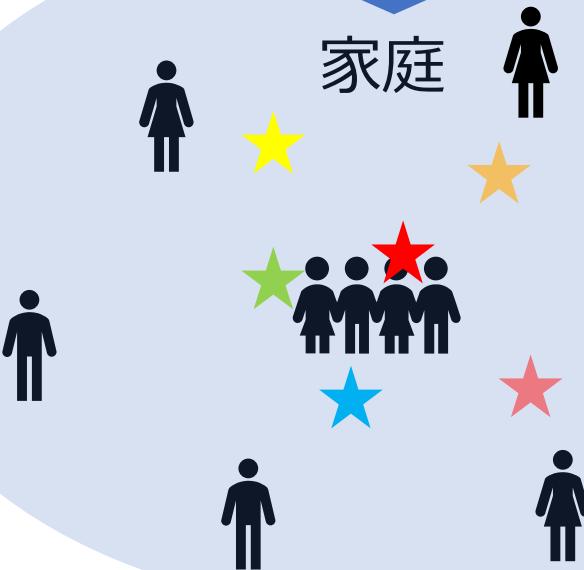
家庭教育支援により目指す状態



つづくも
つなぐ。

家庭教育支援
(みんなの子育て広場)

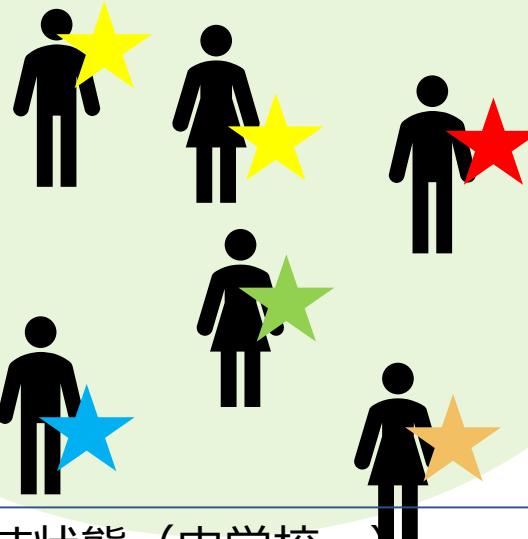
※みんなの子育て広場は、保護者と子ども、保護者と学校が近い小学生の家庭を対象



○目指す状態（小学校）

- ・子どもは沢山の可能性に囲まれていることを知る。
- ・保護者も子どもが沢山の可能性に囲まれていることを理解し、色々な選択肢を示し、子どもの選択を尊重できる。

コミュニティ



○目指す状態（中学校～）

- ・子ども・若者自身が主体的に自らの進路を選択できる。
- ・保護者は子どもの進路を尊重できる。

社会



○目指す状態（大人）

- ・自ら選択した生き方で自立する。
- ・多様な生き方を選択できる。
- ・ウェルビーイング

目指すゴール～具体的な事業案～



現時点で考えられる案は…「講演会開催支援（学校・PTAへの講師派遣）」のメニューの拡充
コンテンツ（知識・技能）の拡充から※コンピテンシー（資質）の育成までをパッケージ化

- ・性教育
 - ・金融教育
 - ・情報モラル
 - ・食育
 - ・キャリア教育（職場体験、講演会）
 - ・衣食住
 - ・いろんな大人（学生も含む）と関わる場
 - ・簡易的なディベート体験
- コミュニケーション能力や自分の意見を述べる力を身につける

社会教育委員会議が目指すゴール

家庭教育支援「みんなの子育て広場」の活性化の具体策を提言してもらうこと
～子どもの健全育成・生きる力を育むため～

※検討が必要なこと：経済格差や親の関心も含めてどうすればより多くの家庭に届けられるか

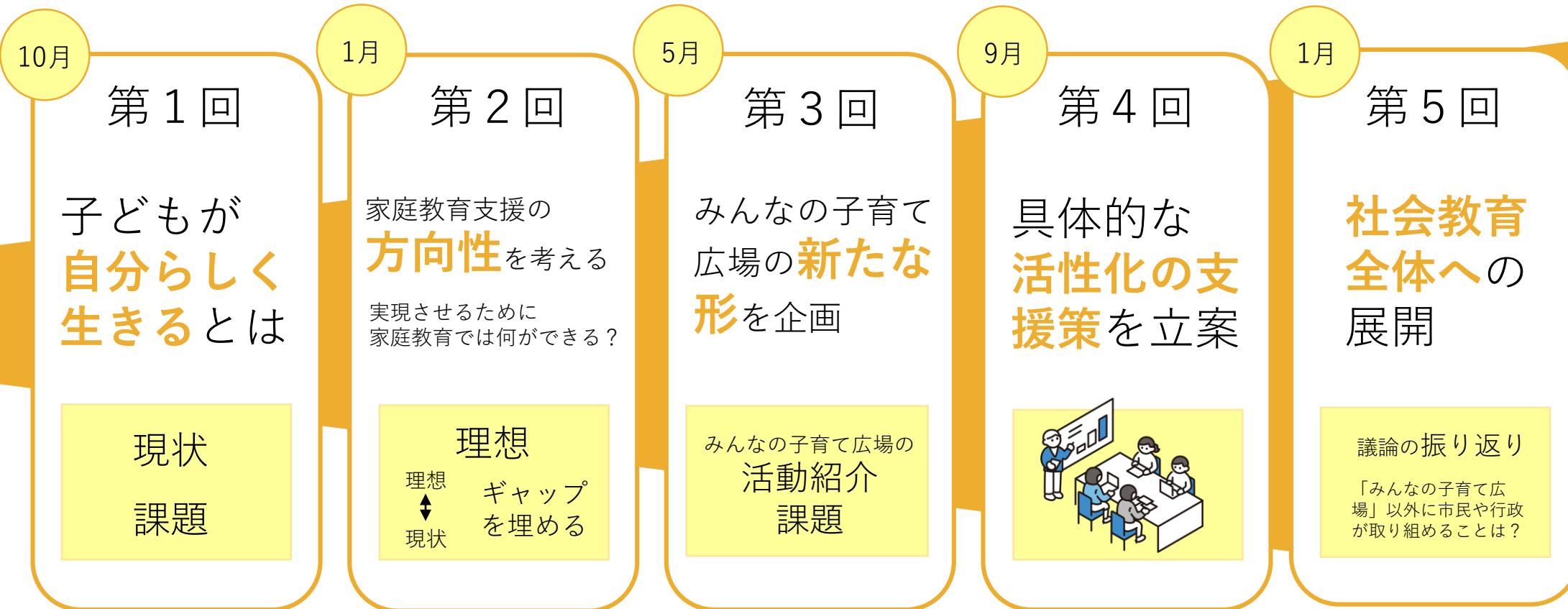
全5回会議のロードマップ



つづくも
つなぐ。

令和7（2025）年度

令和8（2026）年度



より多くの家庭に届く「みんなの子育て広場」へ！